

時代の変化と共に 60年

西成労働福祉センター創立 60年の歩み(1992~2022) その2



新年あけまして

おめでとうございます

新型コロナウイルスによる感染拡大は今も続いておりませんが、皆さまには新年も必要な場面でのマスクの着用、手洗い、こまめな換気等感染防止対策の徹底に協力いただきたいと思います。

令和四年度は、創立六〇周年を迎え、この間多くの皆様方に支えられ、日雇労働者をはじめとする職業紹介や就労支援に取り組んでまいりました。

また、昨年は、三年ぶりに淀川工科高校吹奏楽部による「たそがれコンサート」を開催し、三〇回目をむかえ、大阪府と当財団から感謝状を贈呈しました。「来年も来ます」と指揮者であり顧問の出向井先生から心強いお言葉をいただいたところです。

今年、高齢労働者や就労困難な若年者・女性・外国人にも働く機会を提供できるよう求人開拓に力を入れ、多くのみなさまのお力になれるよう一層励んでまいります。

今年の干支の「卯」は、うさぎのように跳ね上がるという意味があり、卯年は何かを開始するのに縁起がよく、希望があふれ、景気回復、好転するよい年になると言われています。二〇二五年大阪・関西万博に向け大阪も活性化が見込まれます。

本年も就労が不安定な労働者や地域の皆さまのお役に立てるよう、職業紹介や就労相談に取り組みまいりますので、引き続きご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

新しい年が皆さまにとりまして素晴らしい年であり、ますことを心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

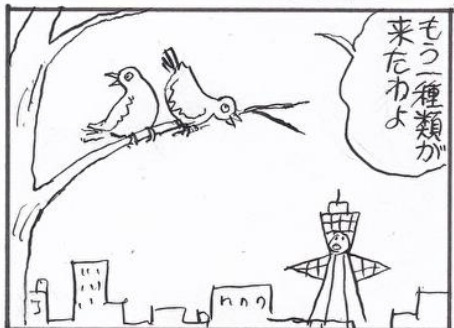
令和五(二〇二三)年一月

公益財団法人 西成労働福祉センター

代表理事 小幡 育



カマヤん あひら



労働者のみなさんの支援を 通じて今、思っていることは...

現場仕事を
教えてくれたのは、
この街の先輩
労働者だった



常に「支援者」として
労働者を陰で支え続けて

編：今まで元気で働いていた人たちが働く場所を失って、野宿を余儀なくされました。

吉：長い間日雇労働をしていた高齢労働者が弾き飛ばされ、他業種で失業した人が流入してきました。わしらは単なる使い捨てだなあと感じました。

「反失業闘争」の主力は労働運動でした。私たちはあくまで「支援者」と自覚していたので、労働者が問題提起をして行動し、私たちは陰で支えるのが仕事だと思っていました。

「仕事」と「寝床」をどうするのか、放っておいては絶対にいけないという思いは一致していました。

そして、野宿や失業のことを社会全体が応えるようになってきた。行政も今まで門前払いであったものが、聞かざるを得なくなりました。

編：あの頃の夜回りでは、地域内だけで千人の野宿を余儀なくされる人たちがいると聞いていました。

新年を迎えた今月は、「釜ヶ崎キリスト教協会」の共同代表である吉岡さんにインタビューを行いました。この会は、発足以来52年間地域で生活する労働者のみなさんへの様々な支援活動を行っています。今回はこの街の60年の歴史を通して、会の活動を振り返ってもらいました。

吉：当時、大阪市の担当部局に問い合わせたところ大阪市内に一万五千人の野宿者がいると聞きました。あの時代のことを若い人たちにうまく伝えられない、それ程の凄まじさがありました。

編：高齢者特別清掃事業が出来た時は、そこで仕事をしている人たちの顔が生き生きとしていました。

吉：行政交渉を行った時、「逆さになっても鼻血もでない。失対事業のようなことは絶対にできない」と言われました。しかし、つぶされたり、減らされたりせず、28年経って今も継続しています。いかに大切な事業かということを表しています。

リーマンショックを契機に 変化していくこの街の動き

編：その後、もう一度地域に大きな影響を与えたのは、リーマンショックでした。

吉：1990年から2000年代の前半は、激動の時代でした。夜回りをしているも、派遣の仕事をして失業した人がこの街に入ってきました。労働者派遣法が制定され、これは日雇労働と変わらないかと思っていたら、やはり体のいい使い捨てでした。

外国人は90年代には非合法も含めて日系のペルーやブラジルの労働者、今は技能実習生だが、現場で本格的に一緒に仕事をするようになりました。生活保護運用の改善は、大阪の「反失業」の運動が「ホームレス自立支援法」制定の実現へ向けて、大きな力を与えました。国の責任で対策を実施しなければならぬと、法律で明文化されました。また、生活保護の一手手前のところで、日雇労働者の権利としては、日雇の雇用保険と健康保険しかない。最後の砦をどのようにして作っていくかが問われています。

自分たちの街の将来は
みんなで意見を
出し合って
決めていける
チャンス!!



編：これから地域はどう変わっていくのか、何が求められているのでしょうか。

吉：「西成特区構想」は絶対に見逃してはいけない。放っておいたり、行政に任せたりでは、とんでもないことになるかもしれない。かなりの議論を内部でもして、意見が分かれることも多々ありました。

自分たちの歴史の中で、この街のいい所や経験してきたこと、だからこうしていかないと、みんなで出し合って、それを突き合わせないといけない。

「協会」なりに経験してきたこと、この地域で生きていくなかった人たちの関わりから、その思いをどう次の世代に引き継いでいくのか、その責任があると思っています。

無料結核健診



誰でも健診が
受けられます

- 1月10日(火) 13:30~15:30 西成労働福祉センター (特掃登録)
- 1月17日(火) 10:30~12:00 阪堺電車沿い(萩之茶屋地域東部)
- 1月24日(火) 10:00~11:30 萩之茶屋南公園(三角公園)南側
- 2月7日(火) 13:30~15:30 西成労働福祉センター (特掃登録)
- 2月14日(火) 13:30~15:45 西成労働福祉センター (特掃登録)

みなさんの就労を応援します

第6回目となる『NISHINARI 就職応援フェア』を2月6日(月)に開催します。仕事を探したい方、仕事に関する相談をしたい方はフェアにぜひ参加してください。「履歴書なんか書いたことがない」・面接でどんなことを聞かれるのか」など、就職に向けての不安がある方は是非参加ください。1月16日(月)~2月3日(金)で事前予約を受け付けます。就職に向けて動きだすあなたを応援します。まずは、紹介窓口又は電話でお問い合わせください。 ☎06-6632-3200



お知らせ

釜ヶ崎日誌
12月11日(日) ほんでなあてよろず相談会が開催される。
12月28日(水) ~ 1月4日(水) 第53回越冬闘争が行われる。
たずね人
板倉 義次郎さん (奈良県 73歳)
佐藤 雄大さん (大阪府 51歳)
ミケレ ほしなさん(千葉県 24歳)

環境整備紹介日	
業務内容: ゴミ収集 分別作業 および 地域内の不法投棄パトロール 駐輪対策 など	
雇用期間: 朝作業班	4日間
屋作業班	6日間
夜間巡回班	3日間
紹介時間: 10時20分	
48回目	1月11日(水)
49回目	1月17日(火)
50回目	1月23日(月)
51回目	1月27日(金)
52回目	2月 2日(木)
53回目	2月 9日(木)

注)1月23日(月)は朝作業班の募集は行いません